

第1回 地方独立行政法人広島県立病院機構評価委員会 議事概要

1 日時

令和6年8月2日（金）17:00～18:00

2 場所

広島県庁北館第1会議室

3 会議の概要

区分	内 容
議題	<p>(1) 委員長の選任</p> <p>(2) 評価委員会運営要綱について</p> <p>(3) 県立病院・JR広島病院の概要及び運営状況について</p> <p>(4) 中期目標・中期計画（構成案）について</p>
委員の 主な意見	<p>○ 高度医療・人材育成拠点については、全国的に見ても非常に意欲的な取り組みである。高齢化など人口動態の変化、医療の高度化、インフレによる設備投資の高騰等、医療を取り巻く環境は厳しくなっており、このような取組なくしては、これからの医療は存続できないと考える。</p> <p>○ 組織の再編・統合は、民間企業であってもハードルが高い。今回の機構の設立も、現在の病院の機能がそのまま地方独立行政法人の中で持続されるわけではなく、新たな拠点を整備してさらに高度な医療を提供するチャレンジングな取組である。本計画においてもカルチャーが違う組織を一体化しながら、どのようにして医療機能の高度化、効率化していくのかについて考える必要がある。</p> <p>○ 統合対象外の医療機関の機能にも影響を与えることになることから、地域の医療機関との連携関係を描いていくことも重要になると考えられる。</p> <p>○ 今回の中期目標・中期計画の期間は、組織統合が行われて新たな病院ができるまでの5年間にあたり、非常に重要な局面となる。これらの期間において、上述の各点について、移行計画として、具体的に、かつ時系列で計画を整理し、現場に落とし込んでいく必要がある。</p> <p>○ 病院の事業計画において、建て替えを伴う場合においては、新たな建物建設に目がいきがちであるが、大事なものは、臨床の内容及び提供体制、病院の運営、さらには患者の動態であり、人員体制や運用などを具体的に計画を立てていく必要があると考える。</p> <p>○ DXについては、院内だけでなく、院外との連携の視点が必要。今回の統合においても、物理的な統合に加え、バーチャルな意味での機能の統合を検討することも重要だと考える。</p> <p>○ 現在の県立病院の経営計画においても、病院ごとに目標を定めて病院運営を進めている。今回の計画においても、しっかりと目標値を示しながら、計画策定を進めていただきたい。</p> <p>○ 人材の部分では、認定看護師や特定看護師の確保が重要となってくる。ただし、確保した人材をただ新病院に集めればよいというものでもない。医療の質を高め、基幹病院を中心に地域の医療機関と連携していく風土を今のうちに作っておかないといけなない。人材育成は短期的に成果が出るものでもなく、計画には5年10年先を視野に入れた目標値を示してほしい。</p> <p>○ 広島県の無医地区は、北海道に次ぐ全国で2番目に多い状況である。県立病院は、現在も安芸津病院における訪問看護・介護など地域に貢献する医療を提供しており、今回の構成案にも、在宅支援の充実や地域の医療機関との連携が記載しているが、引き続き地域の介護施設やケアマネージャーと情報を共有し、地域の医療支援とそれを担う人材育成の役割をしっかりと担っていただきたい。併せて、県立病院機構においては県全体の地域医療を支えていく仕組みへの貢献も必要であると考えられる。特に広島県は全国平均よりも高齢化が進む地域なので、福祉との連携を強く意識していただきたい。</p>